

多高通信

第196号 令和4年2月25日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

サンドウィッチマン来校!

サンドのぼんやり〜ぬTVが取材に来ました



「栗駒・気仙沼巡検」の振り返り発表会にサンドウィッチマンが登場し、1月29日の東北放送「サンドのぼんやり〜ぬTV」で放送されました。



過去の経験をどう生かすかということ

10月27日から29日に行われた栗駒・気仙沼巡検について、災害科学科2年生がスライド1枚に自分たちの学びをまとめました。単なる「行って来たこと」ではなく、「何を考えたのか、災害を学んだ人間としてこれからどう行動していきたいか」を、自分の言葉でまとめました。

その中でも特に秀逸な作品2点について、プレゼンテーションを作成してもらいクラスで共有することにしました。その発表の場にサンドウィッチマンのお二人が登場し、代表の伊藤妃織さん・菊地優衣さんの発表を聴講 質問しました。

震災当時当時気仙沼にいて高台に避難されたお話や、聴講する生徒たちとのテンポのよいトークとお二人の震災・被災地に対する思いを耳にすると、改めて災害科学科の学びが社会から注目されていることを強く認識した災害科学科2年生でした。

2年7組 菊地 優衣(五城中出身)

当日の突撃取材はとても驚きました。自分も内陸出身で、震災があったからこそ「地震津波」と関連して考えられるようになったので、共感できました。サンドウィッチマンのお二人から「震災経験後は「いつか会えると思わず、必ず会うようにしている」と伺って、私も今が当たり前と思わず、中学時代の友人などに会いに行こうと思いました。

東日本大震災メモリアルday

1月22日、東日本大震災メモリアルdayがオンライン形式で行われました。昨年は中止となりましたが、例年は1泊2日の日程で県内外の防災・減災に取り組む学校を招待し、災害科学科生のファシリテーションで進行する多賀城市民会館でのワークショップ、ポスターセッションや被災地案内などを通して交流する行事です。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、本校では災害科学科1・2年生が、元のホールから参加し、こちらの基調講話をzoomで配信するハイブリッド形式で開催しました。午前は災害科学科1年生で行う浦戸巡検でお世話になる浦戸諸島・桂島在住の内海春雄様をお招きし、震災当時の桂島での避難所運営に関する貴重なお話をいただきました。午後からはzoomのブレイクアウトルーム機能を活用したオンラインポスターセッション、グループディスカッションを行いました。災害科学科生の司会進行、Zoom上でのミーティングをまとめ上げていくファシリテーション力など、災害科学科生の成長を感じる場面が数多く見られました。

最後は東北学院大学・和田正春先生から講評をいただき、「伝えるけども伝わらない事実がある、これをどう乗り越えるか」という問いか



けに、伝承の難しさやこれからの世代がどうあるべきか、皆が真剣に受け止めていた様子でした。

白嶺防災フォーラム



例年富山県糸魚川市で行われている「白嶺防災フォーラム」。生徒会の代表が富山県に赴き、フオツサマグナミュージアムなどを見学しながら、防災・減災について北陸地方のみならず全国の学校の皆さんと議論する場です。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、大幅に規模を縮小したものの、Web会議システム zoom を用いて参加することができました。

2年2組 菊池せせら(東豊中出身)

「Sido」を使ったグループディスカッションは初めてで、新鮮な気持ちで取り組むことができました。また今回は高校生だけの参加ではなく、大学生の取組事例なども聞くことができたので、新しい意見や視点を聞くことができるとも良い時間になりました。「今ある避難訓練をもっと生徒側からの視点で進める」というのは、特に興味を沸かしました。

吹奏楽部 大会結果報告

◎ソロコンテスト東北大会

2年6組 大坊 隼也

(宮城野中出身)

2月6日、宮城野区文化センターパトナホールで開催されました「第30回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト東北大会」に出場し、オーボエとマリリンバが金賞を受賞することができました。



練習に関しては、時間が制限される中でベストの状態の本番演奏すること、短い時間で自分の音楽と技術を磨き作曲家が表現したい思いや情景を伝えられるように練習しました。頭でイメージする音色で演奏できるようにトレーニングすること、練習する度に広がっていく楽曲の世界観

を独奏で表現する喜びを味わいました。本番は練習通りに演奏できないところもありましたが、豊かに響くパトナホールで自分の作った音楽を聴いていただく幸せを感じながら演奏することができました。

結果は金賞でしたが、目標の全国大会に一步届かないものでした。しかし、自分と向き合い音楽を追究した濃密な時間は、コロナ禍で様々な行事が中止されていく中で、自分を成長させてくれる貴重なものとなりました。悔しさもありますが、次こそは全国大会に出場しようと決意努力して行きたいと思っています。

感染者数が増加していく中で、練習場所と時間を確保していただいた先生方、応援してくださる生徒の皆さん、保護者の方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも練習に取り組んで行きたいと思えます。応援ありがとうございました。これからも多賀城高校吹奏楽部をよろしく願います。

◎アンサンブルコンテスト東北大会

2年1組 松本 日菜向洋中出身)

2月13日に開催されました「東北アンサンブルコンテスト」におきまして、サクソフォン8重奏、金管8重奏がともに金賞を受賞し、金管8重奏が3月に山形で開催される全国大会に出場することとなりました。感染症予防のため活動が制限される中、大会直前に練習ができなくなることもありましたが、そのような中でも本番で力を発揮できたのは、これまで演奏を作り上げていく過程で生まれた絆があったからだと考えています。そのような仲間と音楽表現を高めてきた時間はとても充実したものでした。

積み上げてきた音楽をお客様に生演奏で聴いていただけたいことは本当に幸せで、主催していただいた吹奏楽連盟の方々から感謝しております。これからも大好きな音楽を仲間と共に深めていきたいと考えています。そして、3月19日に山形で開催される全国大会に出場する金管8重奏のメンバーは、東北代表としての自覚をもって練習に励んでいきたいと思えます。



左：サクソフォン8重奏、右：金管8重奏のメンバー

このような中でも練習時間を確保していただいた先生方、いつも応援してくださる皆様への感謝を忘れずこれからも頑張ります。今後とも本校吹奏楽部の応援をよろしく願います。

